

よみさんぼ

大宮見沼



写真家 野口勝宏

第15号

やどかりの里発！ 地域発見マガジン

特集

私の図書館活用法

編集 公益社団法人やどかりの里「大宮見沼よみさんぼ」編集委員会



私の図書館活用法



私は何年か前まで図書館に勤めていましたが、今は熱心な利用者です。そんな立場から「私の図書館活用法」をご紹介します。

やどかりの里のメンバーの人たちも本好きが多いと聞きました。皆さんは、図書館をどのように使っているのでしょうか。何人かの人に伺ってみました。

「図書館とは長い付き合いです。中央図書館と北浦和図書館、自宅近くの南浦和図書館を使っています。中央図書館は本がたくさんあって広くてきれいだけど、歴史の本とかであんまり必要なさそうな本もあるように思う。中央図書館ができる前に浦和にあった東高砂分館にはいい本が揃ってたな」

「週に2～3回は図書館に行くけど予約はしない。棚に並んでいる本から選ぶ。探していた本が思いもよらない場所にあることがあるね。川の本が建築のあたりにあるなんて思わなかったよ。図書館の人には本の場所がわからない時には聞くけど、コンピュータで調べるだけ。誰でもできるんじゃない」

「週に一度は中央図書館に行きます。友達と待ち合わせるためなので、本を借りるのは時々ですけど。本は好きでよく読みます。今は友人に借りた本を読んでいます。潔癖なところがあって、図書館の本は何となく汚れが気になります」

「武蔵浦和図書館を利用しています。好きな作家の本を予約するのですが、なかなか順番が回ってきません。予約の本は窓口で図書館の人に言ってコンピュータに入力してもらいます。予約の本が用意できた時だけ行きます」

数人の人に伺っただけでも、図書館の活用法はそれぞれで、いろいろな使い方をされています。図書館は、本を借りる人、新聞を読む人、イベントに参加する人など、さまざまな使い方があると思います。ただ、人と同じで図書館も得手・不得手がありますから、私はいいところを活用するようにしています。

図書館の不得手は？

図書館が不得手なこととしていちばんにあげられる点は、「新しい本がない」

「ベストセラーがない」ということでしょうか。

図書館の「新しく入った本」コーナーをのぞいても、たいてい少ししかありません。それも「○×法講義」のような妙に難しい本ばかりだったりします。ベストセラーの小説、例えば又吉直樹の「火花」ともなれば、リクエストして何か月も待たないと借りられません。書店と違って、借りる人の分だけ本を補充するわけにもいかないのです。売れ筋の本は図書館では借りられないと私はあきらめることにしています。

でも、売れ筋というのは移ろいやすいもの。次のベストセラーが出てくる頃には図書館の棚にも並ぶようになります。少し前のベストセラー、「聞く力」(阿川佐和子, 2012)「置かれた場所で咲きなさい」(渡辺和子, 2012)「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」(岩崎夏海, 2009)も、今なら棚に並んでいる図書館もあります。だから、急がない時は下火になるのを待って読みます。

図書館ならではの本

では、図書館のいいところはなんでしょうか。私は、いろいろな種類の本があることだと思っています。例えば古い本や、普通に流通していない本です。書店だと、早いものは3～4年で品切れになり、そのまま店頭から消えてしまいます。雑誌も前月号は店頭からは姿を消すのが普通です。もっと古い本ならなおさらのこと。図書館なら、1993(平成5)年の「ワイルド・スワン」(ユン・チアン著、土屋京子訳)だって、2001(平成13)年の「世界の中心で、愛をさけぶ」(片山恭一著)だって、今でも簡単に見つけることができます。

普通に流通していない本とは、埼玉県や大宮市などの公共機関、商店会や業界団体が刊行した非売品の資料などです。例えば「埼玉国体の記録1967」や「大宮銀座通り80年のあゆみ」「マルキュー物語」「片倉製糸紡績株式会社二十年誌」のようなもの。図書館でなくては見ることはできません。しかも大宮銀座やマルキューの本など地元の図書館ならではのよう。

本と私

古い本や変わった本があることがいいところなんて「へそまがり」のようですが、図書館の多種多様な本のおかげで、私自身はずいぶん視野が広がったよ

うな気がします。

学生時代まで小説や文学ばかり読んでいた私が、他の分野にも目を向けられるようになったのは図書館の本のおかげだと思っています。年表を読むおもしろさに目覚めたのも、調べものをするために借りた「近代日本食文化史年表」や「明治大正家庭史年表」がきっかけでした。

今までなじみのない分野から、おもしろい本を見出せたのは、棚を眺めていて「おや」と思った程度の本でも、ためらうことなく借りられたからでしょう。これも「無料」で「返す」ことができる、図書館のいいところかもしれません。

読み終えるのが惜しいような本に、思いがけなく出会った時など、こんなにある本の中から、よくぞ巡り会えたと感慨深いものがあります。

得意なのは調べもの

図書館ならではのものといえば、レファレンスサービスがあります。簡単にいえば「図書館の人が調べもののお手伝いをします」ということです。

例えば「子どもの時に読んだこういう内容の本を探している」とか、「奈良からの遷都は、大仏を造る時に使用した水銀による公害が原因だったと聞いたが、そういうことが書いてある本はないか」など……

そんな質問に答えられるような本を、図書館の人が探してくれるというわけです。その図書館の本だけで調べられない時は、他の図書館の本も使ったり、国立国会図書館まで調査を依頼したりもしてくれます。個人で調べるより、深いところまで調べられることが多いので、このサービスはおすすめです。

インターネットで調べるという手段もありますが、とっかかりをつかむにはいいけれど、何万件も出てくるわりにつかみどころがないように思います。

図書館の人は、たいていの場合、調べたいことが載っている1冊だけではなく複数の本を用意してくれますから、自然に周辺のことまで見えてきます。おかげさな言い方かもしれませんが、インターネットとは見える世界が違うと思うのです。

私は、急いでちょっと調べる時はインターネット、じっくり調べたい時は図書館でと、使い分けることにしています。

さいたま市の 図書館

● 北区 ●

北図書館 669-6111
宮原図書館 662-5401
大宮西部図書館 664-4946

● 岩槻区 ●

岩槻図書館 757-2523
岩槻駅東口図書館 758-3200
岩槻東部図書館 756-6665

● 西区 ●

三橋分館 625-4319
馬宮図書館 625-8831

● 大宮区 ●

大宮図書館 643-3701
桜木図書館 649-5871

● 見沼区 ●

春野図書館 687-8301
大宮東図書館 688-1434
七里図書館 682-3248
片柳図書館 682-1222

● 中央区 ●

与野図書館 853-7816
与野南図書館 855-3735
西分館 854-8636

● 浦和区 ●

中央図書館 871-2100
北浦和図書館 832-2321

● 桜区 ●

桜図書館 858-9090
大久保東分館 853-7100

● 南区 ●

武蔵浦和図書館 844-7210
南浦和図書館 862-8568

● 緑区 ●

東浦和図書館 875-9977

さいたま市には 24 の図書館

私は主に氷川参道のところにある大宮図書館と、北図書館を使っています。北図書館は建物も新しく、本もまだピカピカしているので、全体的に明るい雰囲気です。逆に大宮図書館は、さいたま市でいちばん歴史のある図書館です。1924（大正13）年に始まり、1973（昭和48）年に今の場所に移りました。ですから、ここにしか所蔵していない本がたくさんあって、古いけれど頼りになる図書館です。

もちろん借りたい本は、この2つの図書館だけで足りるわけではありません。さいたま市のあちこちの図書館に散らばっていますから、リクエストをして、いつも行く図書館まで取り寄せて借りられるようにします。

こんなふうに、私は図書館ならではのいいところを活用することで、便利に使っているのです。皆さんも、ぜひ図書館を有効に活用してみてください。（記 並木せつ子）

やどかりの里の仲間たち・14

地域に必要とされる存在 を目指して

大木ひろみさん



いつでも誰でも、変わらぬ笑顔で迎えてくれる大木ひろみさん。話していると不思議と元気がもらえます。大木さんとやどかりの里との出会いは、今から20年以上も前のこと。地元駅で中学の同級生だったやどかりの里の職員と再会したことがきっかけでした。当初はやどかりの里の研究所会員として、その後は手作り製品などを販売する作業所なす花（現すてあーず、さいたま市南中野）でやどかりの里の活動を応援してくれていました。現在は会計事務所で働きながら、週1日すてあーずの非常勤職員として革細工の作業をしています。

「やどかりの里のメンバーは、人間的な苦労やいろんな思いを体験されているからこそ、やさしさにあふれた人ばかり。その素敵な面がもっと発揮されていけばいいなと思います。そして社会的に弱い立場に置かれた人にやさしい環境をつくれたら、すべての人にやさしい社会が出来るような気がします」

そんな大木さんのライフワークは、ずばりお掃除。いつも早朝から自宅周りを、時には「各地お掃除に学ぶ会」に参加して汗を流しています。

「日々の生活で凝り固まったものが、掃除をすると爽やかな清々しい気分へと変わっていきます。掃除は人間性をつくるもの。まだまだ人間性を育てている最中なので、生涯をかけて掃除に取り組んでいきたいです」と笑顔で話してくれました。

現在は、やどかりの里で始まった農福連携事業のお手伝いもしてくれている大木さん。大地に根ざした活動に大きな期待を抱いているそうです。今後については「もっとやどかりの里が地域に入り『あの人がいないと』とメンバーが地域に必要とされる存在になればと思います。私はこれからもやどかりの里の活動を応援していきます」と心強い言葉をいただきました。（記 萩崎千鶴）

よみさんぽ 日誌

「生きている民家」

旧坂東家住宅 見沼くらしっく館



小雨まじりの日、見沼くらしっく館を訪ね、学芸員の横田素子さんにお話を伺いました。園内に入ると、うっそうとした屋敷林に囲まれて茅葺きの民家が建っていました。北側は見沼の斜面林、東側は水田という立地のせいか、時がとまったかのような静けさ、さいたま市内にいることを忘れてしまいそうです。

この民家は、江戸時代に加田屋新田を開発した坂東家の旧宅を、ほとんど同じ場所に復元したものです。昔の農家の暮らしを直に感じとれるよう、住宅の中は自由に見学できるようになっています。また、「生きている民家」をテーマに、地域の年中行事や昔の遊びの再現なども行っています。

「うるし」「編む 草・藁・竹の造形」「染・織・刺繍」などの企画展示や、昔遊び体験、工芸工作の講座、郷土の歴史を学ぶ講座など、子どもにも大人にも楽しめる行事が毎月開催されています。7月にはマコモ（イネ科の植物）の七夕馬やほおずき飾り作り、8月には水鉄砲遊びがありました。

今年の3月には、村廻り紙芝居を再現した行事がありました。紙芝居のおじさんが自転車の荷台に箱を乗せ、拍子木の音とともに村を廻ります。くらしっく館の庭に子どもが集まると、お菓子も配られ、さあ紙芝居の始まりです。演目は「三まいのおふだ」「けちくらべ」「あんもちみつ」などで、おじさん手づくりの紙芝居もありました。定番のクイズの時間もあり、子どもたちは街頭紙芝居を大いに楽しみ、大人は子どもの頃を懐かしんだということです。実は紙芝居のおじさんは、県内で子どもの文化を広める活動をしている方です。

見沼くらしっく館では、コンサートが開かれることもあります。毎月の講座をチェックして、多彩な行事に参加するもよし、住宅の静寂の中でゆったりするもよし、いろいろな楽しみ方ができるところです。（記 並木せつ子）



紙芝居の中村剛さん作

旧坂東家住宅 見沼くらしっく館 9:00～16:30
休館日 月曜日（祝日除く）祝日の翌日（土日祝日除く）
TEL 048-688-3330 さいたま市見沼区片柳 1266-2

あの街 この街 俊一郎が行く・9

無骨な書庫と本の壁

古きに学ぶ

こんにちは！ 建築という学問が他の技術系の学問と一番異なる部分は、過去の作例から引用することが少なくないということかもしれません。それは、生活様式が時代とともに変化しても、人が快適だと感じる視覚的感覚、肉体的感覚はそう大きく時代ごとに変化しないことが理由かもしれません。だから、計画しようとする建物の印象をどのようなものにするか考える時、私は何かに追いつめられるように深夜の書店や、図書館の奥深くまで探索に出かけます。

図書館という日常



大学という場所は、学年が進んで所属する研究室ができるまで意外と居場所がありません。しかし、実家から通っていた身としては、授業を終えてただ帰るだけでは物足りません。そんな時、友人たちとただただ漫然と過ごすのいうってつけの場所が学校の図書館の自習室でした。1階は広い開架書庫があり、脇には1人用の読書席。2階はまるまる広い自習室になっていて、6人掛け程度の大きなテーブルがいくつも並んでいました。居眠りをする人、調べものに没頭する人、そして大抵は私と同じように友人と過ごすための居場所として活用していました。

本のおいにつつまれる

そんな、ただ何となく集う場所となっていた学校の図書館の自習室。自習をしたり、課題に取り組んだり、たわいのないおしゃべりをしながら過ごすその空間に飽きた時、図書館の物陰にあるエレベーターに向かいます。ガタガタと不安げな音を立てて動くエレベーターが、「チン！」と古くさい音を立てて停まると、窓のない無骨なスチール製の書架が並ぶ^{かび}黴臭い書庫に着きます。学校特有のオカルト的な噂もあるその書庫は、ほとんど人に出会うこともなく、時間を忘れて過ご

とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）



せる場所でした。

古くて新しいもの

書架には、戦前のもから現在に至る建築雑誌のバックナンバー、誰が取り寄せたのか海外の古い書籍までもが並んでいます。特に見つけて嬉しかったのは大きな図面集。レアもののコレクションカードをゲットした時と同じ喜びがありました。そして古い書籍から、古いけど新しい情報を得て課題に取り組むと、なぜか新鮮な気持ちになった気がして探究心を満たしてくれます。ひょっとしたら、決して真面目とは言えなかった授業への取り組みを、気持ちの面で埋め合わせてくれていたのかもしれませんが。腹が減り、ふと我に返るとオカルト的な書庫の噂を思い出し、書庫に響く他の階の足音にビクビクしつつ図書館を後にします。



本に埋め尽くされた空間

「建築」という言葉は、その意味を的確に人に伝えることが難しいのです。無論、設計や施工という技術そのものかもしれませんが、それだけではありません。物が形づくられるためには、思想であったり社会背景であったりを反映した物でなくてはならず、それらを要約して方向性として定めたものがコンセプトであり、その集積として形づくられた物が建築だと思えます。

何の愛想もない無骨な書庫で見つけた本で紹介されていたストックホルム市立図書館は、その壁面がすべて本で埋められていて、まるで本の壁のようになっています。本の壁には色とりどりの本が並んでいて、きれいなモザイク画のようにも見える。そして、照明や天窓、そしてキャットウォーク（高所の調整や点検のための狭い通路や足場）などの1つ1つが、その本の壁を効果的に見せる形になっているのです。まだ行ったことはありませんが、いろいろと教えられた建物の1つです。皆さんもよければ探してみてください。

あなたの街のやどかりさん

やどかりの里コーラス隊 Stars

歌が好き！音楽が好き！

コーラス隊を結成！

大宮の街を舞台とした音楽の祭典、アートフルゆめまつり。音楽を通じた街づくりにやどかりの里も加わりたい、そんな思いでアートフルゆめまつりに参加することとなりました。そこで、やどかりの里にあるさまざまな事業所から、歌うことが好きなメンバー^{注)}、メンバーの家族、職員が集い「やどかりの里コーラス隊」を結成。今から3年前のことでした。

「夢のような時間」

コーラス隊の活動は、アートフルゆめまつりで披露する曲決めからスタート。そこで選んだ曲が、東日本大震災の復興支援ソング「花は咲く」です。講師の先生方の協力もあり、曲に込められた思いをみんなで共有し、練習を重ねていきました。そして迎えたアートフルゆめまつり当日。その日のために準備した「さとんちゅ里人Tシャツ」を身にまとい、思いを込めて歌うコーラス隊の姿がありました。「夢のような時間だった」と振り返るメンバーもいました。



Stars & Dreamers 誕生！

この発表を通じ、大きな充実感と達成感を得たコーラス隊。「目標をもってみんなで歌うことに意味がある」と、コーラス活動に意義を感じているメンバー

注) やどかりの里では障害のある人のことをメンバーと呼んでいます。

第15回

皆さん、音楽は好きですか。歌うことは好きですか。やどかりの里には、そんな歌好き有志が集まって結成したコーラス隊「Stars」があります。今回は、Starsの結成から現在の活動ぶりをご紹介します。

もいて、その後も活動を継続。今年はアートフルゆめまつりへの3回目の参加となりました。この間、少女合唱団イトロのコンサートで共演も果たしました。「舞台に立つのが癖になりそう」「もっとみんなの前で歌いたい」と話すメンバーも……今では大宮夏祭り前夜祭、やどかりの里の「里祭」、やどかりの里大バザーなど、コーラス隊の歌声を披露する機会も増えています。

そして今年、活動3年目を迎えたところでコーラス隊の名前が「Stars」に決まりました。1人1人、星のように輝く人たちが集っている、という意味が込められています。また、今年はコーラスだけでなくドラムやギター、ベース、クラリネット、フルートなどのバンド「Dreamers」も加わり、楽器演奏とのコラボレーションも実現しました。

「楽しく歌う」をモットーにつながりづくり

毎月第1, 3, 5木曜日に練習を行っているStars。毎回10～15人が集まり、活き活きと歌っています。バラードからアップテンポの曲までレパートリーも増えました。「上手い」「下手」ではなく、「楽しく歌う」ことがStarsのモットー。これからもそのモットーを大切に、みんなで音楽に親しみ、さまざまな人たちとつながっていきたいと思います。(記 萩崎千鶴)

インフォメーション

12月13日(日) 15:00～

小さな小さな音楽会 ～61本のハンドベルが織りなすハーモニー～

場所 やどかりテラス, サポートステーションやどかり

(さいたま市見沼区中川562), 参加費無料

やどかりマルシェも同時開催予定! Starsも歌声を披露します!

いい塩梅 いい加減

音楽を通してつながる輪

萩原さえ子さん

(ソプラノ歌手・チューリップの会主催)



コーラス隊 (Stars) がアートフルゆめまつりを通して出会い、発表や音楽に触れる機会を提供してくださる萩原さえ子さん。萩原さんは、アートフルゆめまつりのほか、新都心アートステージの立ち上げや、大宮夏祭りの前日に行われる平成ひろば祭りにも関わっています。今回は、その萩原さんにインタビューしました。

いつも身近にあった音楽

「幼い頃からピアノを習い、音楽に親しんできました。音楽大学に進学後、先生の勧めもあってピアノ科から声楽科に転科。そこから声楽の道に進みました。そして卒業後の進路として選択したのは、ウィーンへの留学。『世界を見ておいで』と父が認めてくれ、1年間、音楽はもちろん、素晴らしい街並みやたくさんの花に触れました」

音楽を通した街づくり

もともと街づくりには関心があったと話す萩原さん。実はご実家が明治時代から続く青果店でした。

「街づくりに関心を持ったのは、父の影響もあったのかもしれませんが、父は大宮中央青果市場を立ち上げ、大宮駅東口に高島屋を誘致した人でもありました。家業の発展はもちろん、大宮の発展を願って活動していました」

萩原さんがアートフルゆめまつりに関わるきっかけは音楽でした。大宮駅西口にある鐘塚公園で開催されているせせらぎコンサートに関わっていた加藤久美子さん（よみさんぽ第4号 p2～p5）のご子息にピアノを指導していたことで、一緒にやらないかと声をかけられたのだそうです。

「漠然と思っていた、音楽を通し

た街づくりが実現できる機会でもあり、以来ずっと関わっています。新都心アートステージや平成ひろば祭りも同様です。音楽だけでなく、大好きな花を花壇に植え、手入れして、街をきれいにしようという活動も継続しています」

「チューリップの会」立ち上げ

「仕事柄、ステージに立つとお祝いにお花をいただくことが多く、素敵なお花を見つけると、取り寄せて飾っていました。また、ピアノや歌を教えていた花好きな生徒の分も、希望があれば取り寄せていました。そこで、花を取り寄せる原価と経費に少し代金を上乘せし、余剰分を寄付してはどうかと考えました。毎月1度お花を飾る自分のための小さな楽しみが、いつの間にか誰かのためになっていると思ったら、無理なくできると考えたのです。その時に立ち上げたのが『チューリップの会』です。今年で17年目を迎え、会員300名、4人のフォスターチャイルドの支援、バングラディッシュの女性の技術習得支援（刺繍や裁縫など）、あしなが育英会に寄付をしています」

「いい塩梅」「いい加減」

「ボランティアやチャリティの活

動は、『してあげる』のではなく『できることをする』ことが大切だと思います。特別なことをやろうと思ったら、なかなか続きません。私は『いい塩梅』『いい加減』という言葉が好きです。自分にとって無理のないやり方で『できること』を続けることが大切だと思っています。ボランティアやチャリティには、いろいろな形があります。30数年続けているコーラスグループの指導を通しては、60～80歳代になったメンバーの健康づくりになっていると思いますし、やどかりの里の皆さんをコンサートに誘うことも、本物の音楽に触れてもらうことが、心地よい時間を過ごしてもらうことにつながるとしています。これが、音楽とともに生きてきた私が今『できること』です」

萩原さんの活動の原点は「音楽」。その音楽を通したつながりが、活動に活かされていることが伝わってきます。やどかりの里も萩原さんのように、音楽を通じて人も活動もつなげていきたいと感じさせられる時間でした。（記 宗野 文）

インフォメーション

喫茶 味ズ



営業時間 月～金 10.00-17.00
さいたま市大宮区天沼町 1-136-2

募集

- ☆作品展示したい方
- ☆雑貨販売したい方
- ☆貸しスペースあります

詳細は ☎ 048-657-0202

天沼1丁目
大宮駅 喫茶味ズ
スーパーバリュー
○ 大宮天沼店

埼玉県産小麦粉を使用 手づくりまんじゅう

まごころ



さいたま市中央区本町東 5-9-7
Tel. 048-857-2783 Fax. 048-857-2769

*パートさん募集！

やどかりの里が運営しているエンジュでは、高齢者向け宅配弁当サービスを行っています。現在エンジュでは、作業補助、配達のパートさんを募集しています。
(主に見沼区周辺を配達します)

<作業補助・配達>

曜日/月～金, 13:30～17:30
時給 840円

<配達>

曜日/月～金, 16:00～17:30
時給 840円

お問い合わせは以下まで

エンジュ (見沼区南中野 286-1)
TEL 048-686-7875
(担当 永瀬恵美子)

おいしく食べて
健やかに

栄養バランスのとれた
お弁当で食生活を変えます



昼食 1食 550円

月～金, 1食からお届けします!

- ※お好みや刻み食も対応します
- ※ご希望の曜日にお届けします

エンジュ TEL686-7875

<受付> 月～金 (祝日を除く) 8:30～18:00

農作業のボランティアさん 募集中!

～やどかりの里では農福連携事業を
始めています～

詳しくはやどかり情報館まで

TEL048-680-1891 (担当 宗野, 木村)

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
どうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜひたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円筒1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部酵母を除く)

この道30年の職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145



そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。

野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

- 本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円筒1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL：048-854-6890 FAX：048-856-0313
- 〔はたらく〕 ●つばさ共同作業所 (中央区) ●あさみ共同作業所 (見沼区) ●そめや共同作業所 (見沼区) ●きりしき共同作業所 (中央区)
- さいたま障害者労働センター (埼玉県)
- 《くらす》 ●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえてホーム ●かりんホーム ●よつばハイム
- なつめホーム (以上、中央区) ●のぞみホーム (見沼区)
- 《ささえあう》 ●中央区障害者生活支援センター栄夢 ●地域活動支援センター栄夢 (以上、中央区)
- 見沼区障害者生活支援センター栄人 (見沼区)

作者紹介

写真家 野口勝宏さん

のぐちかつひろ／写真家、福島県在住。
「福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい」と「福島の花」シリーズを制作。開催中の福島県観光キャンペーン「福が満開、福のしま」においては前年に続いてJR東日本のメインイメージに起用され、ポスターや駅構内装飾・ラッピング車両を花で彩る。福島空港においてもANA全日空カウンターや搭乗橋、到着ロビーを花の写真作品で彩っている。著書に「ここは花の島」などがある。Nikon Photo Contest 2014-2015写真部門では、グランプリを受賞。「福島の花」シリーズは<http://noguchi.jpn.com>にて閲覧可能。Facebookは「福島の花」「野口勝宏」で公開中。

表紙：コギクとアケビ

時間軸に点在するいくつもの交差点。

今が盛りの花は今日を生き土に還るものは新しい命を支えるために時をゆっくりとつつみこんでいく。

題字 宗野文さん

学生時代から書道が大好きで、子育て中の今、我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第15号

発行 2015年10月（秋号）

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただけてきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。

「大宮見沼よみさんぽ」編集委員一同